

他地域のくらし

三重県 公立小学校教諭

1. はじめに

近所に讃岐うどんの店ができた。店主はいつもニコニコの優しいおじさんで、早速お友だちになった児童もいるもよう。おじさんは香川県の出身で、縁があってこちらに店を構えたという。

ちょうど、社会科の「各地の人々のくらし」がはじまったところで、数人の児童が休みの日におじさんにインタビュー。「香川はね、暖かいのはこちらといっしょだけど、お百姓の苦勞するところだね。たいへんだったよ」

2. 香川県って？

とはいっても、子どもたちの香川についての知識はお寒いかぎり。讃岐うどんが香川県産ときいて「へーえ」というありさまである。

そこで、帝国書院版『小学生の地図帳（初訂版）』p.1～2で香川県の位置を確認させ、p.25～26「四国地方の地図」を見てイメージをださせせた。

その結果、「狭い」「平野が比較的広い」といったイメージがだされた。

3. 地図帳を活用しよう

讃岐平野には早くから水田が開かれ、奈良時代にはすでに、現在の面積の7割にあたる水田地帯が開

かれていたという。以後、農業の発達のための努力の大半は用水の確保にあてられてきた。この事実気づき、讃岐平野の人々のくらしに迫るため、地図帳をさらに活用することにした。

①おじさんのことばには、とてもだいじなヒントが示されていた。まず、これを画用紙に書いて黒板上に呈示。

②もう一度、地図帳を探索。今度はp.26の香川県の拡大図を利用する。

③続いて、p.58 私たちの国土「気候」を利用。

グループに別れ、まずは地図の探索。議論をし、意見をまとめて発表する。おじさんのことばから何を発見できるか、が課題。

気づき1：大きな用水路がある。しかも『香川用水』という名前まで書いてある。

気づき2：6月の降水量をみると、高松付近だけが極端に少ない。

気づき3：香川県は山が少ない。標高も低い。川に流れる水の量が少ないのではないか。

等の考えがだされた。農業には不可欠の水の確保に、この地域は長年苦勞してきたにちがいない、という推論がなされた。最後に、教師が讃岐平野の航空写真（満濃池は実に巨大である!）と新聞記事（湯水のように水を伝えるもの）を呈示して、推論を補強した。

4. 資料としての地図帳の価値

最近パソコンを使っての調べ学習もよく行うが、調べそのものは早く切りあげて、推論に時間をかけたいとき、必要最小限の情報コンパクトにまとまっている地図帳は実に有用である。

5. おわりに

—香川が近くなったみたい—
学習のきっかけを提供してくれたおじさんにお礼方々、学習のようすを伝えると、何と翌日、うどん玉を持ってきて「うどん切り」の実演を見せてくれた。実は、おじさんの故郷は屋島の東の入り江。大河ドラマの義経が弓を流した所という。子どもたちの香川への関心がにわかに盛りあがった。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.26

自動車の輸送・輸出 —生産拠点と高速道路網—

愛知県小学校教諭

1. はじめに

5年生の産業学習において、大切にしたい視点は、モノの流れである。農産物や工業製品がどこでつくられ、どこへ送られているのか、食料や原料がどこから輸入されているのかなど、貿易や運輸の働きなくして、現在のわが国の産業は成り立たないと思う。

そこで、わが国を代表する自動車産業を取り上げ、それを学習する上での地図帳の活用法を考えてみた。

2. 愛知県でさかんな工業製品を調べよう

愛知県でどんな工業製品がつけられているかを調べるために、帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』（以下、地図帳）p.33～34の読み取りを行う。

イラストを手がかりにして、愛知県では自動車・自動車部品・製油所・タイヤなど、自動車と関係のある工業製品のイラストが多いことや、豊田市周辺では、特に自動車の生産がさかんなことに気づかせていきたい。

3. 自動車産業のさかんな豊田市を調べよう

自動車の生産のようすは、さまざまな資料や自動車会社のホームページなどにより、具体的に調べ学習を進めていくことができるが、そのなかで地図帳

p.34のテーマ図「自動車生産のようす」を取り上げたい。

このテーマ図からは、豊田市に自動車の組立工場が集中し、自動車の部品を生産する工場が多数集まっていること、工場が高速道路のI.C.付近や主要な道路沿いに多く立地していることに気づかせたい。そして、その意味を考えさせることで、効率的な生産ができることや、高速道路を利用すれば、各地の自動車販売店や外国へ輸出するための船積みセンターに完成車を輸送する上で、都合のよいことにも気づかせていきたい。

また、ほかの工業地域やほかの製品（IC=集積回路）にも同様の傾向がみられることを、地図帳p.60⑤⑥のテーマ図からおさえ、高速道路網と運輸業の働きについての理解を深めていきたい。

4. おわりに

子どもたちには、学習に関わることから調べるためだけに地図帳を活用するのではなく、日常的に地図帳を利用する習慣をつけていきたい。

たとえば、国内・海外でのできごとや、家族旅行ででかけた場所、歴史学習での地名などを地図で確かめ、その場所に印をつけていくのである。

このような活動を継続することで、さまざまな地域や国に対する興味・関心を高めることにつながっていくと考える。今、雑学ブームといわれるが、地図帳は子どもたちの好奇心をくすぐる情報の宝庫であると思う。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.33～34